

平成23年度
企画展示

近世讃岐の 島と浦

古文書で読み解く
海辺のくらし

高松藩領内図
(部分：高松城下・屋島・志度湾一带)
岸本家文書

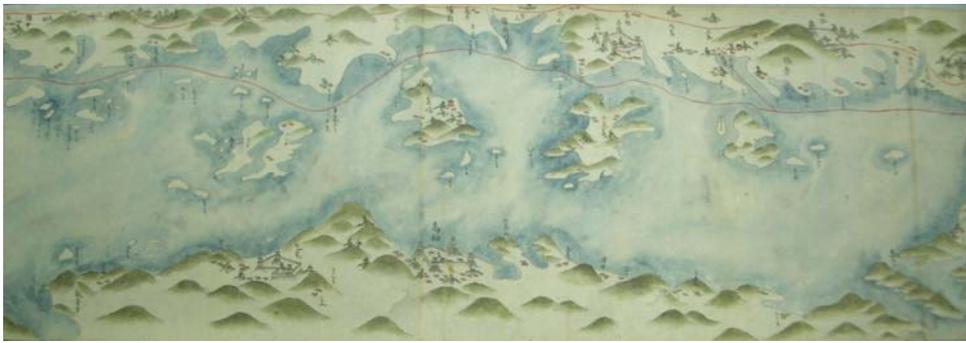
7月26日(火)~10月2日(日)

開館時間/午前9時~午後5時 休館日/月曜・祝日・9/20(火)

観覧料/無料

香川県立文書館
Kagawa prefectural archives

〒761-0301 高松市林町 2217 番地 19
Tel:087-868-7171



■西海道海陸道中図巻

近世讃岐の島と浦

古文書で読み解く
海辺のくらし

香川県立文書館では、開館以来県内各地に伝わる古文書を収集・整理するとともに、その調査研究を行ってきました。今回の企画展示では、文書館が収集した古文書の中から、近世讃岐の海辺のくらしを伝える史料を展示いたします。

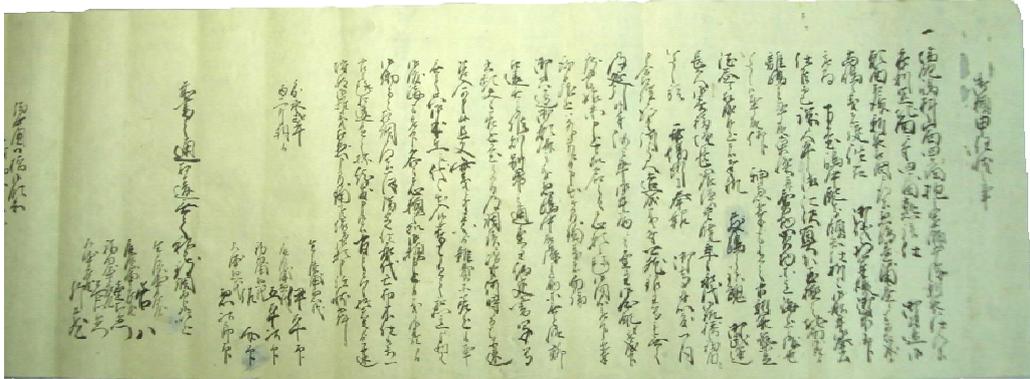
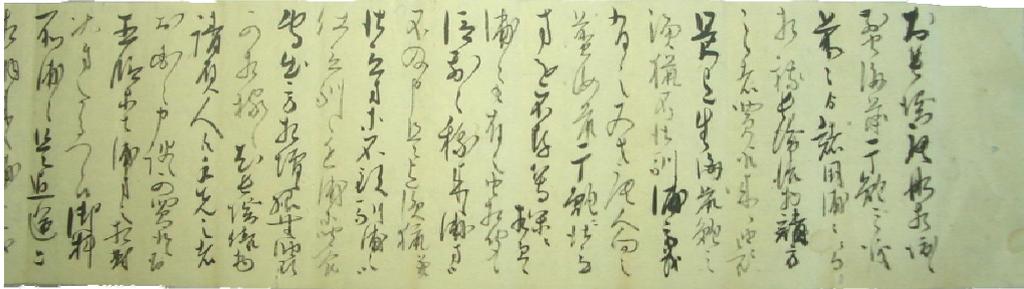
讃岐国は三方を海に囲まれた陸地部分と、瀬戸内海上の多くの島々から構成されています。海に面した浦(入江・湾など陸地に入り組んだ海岸)は、漁業や海運を生業とする人々の生活拠点「浦方」として発展していきました。浦方には、海浜地域ならではの産業に携わる人々のくらしがあり、農業を生業とする「村方」とはまた違う地域の姿がありました。その一端を古文書を通じてご紹介します。

■造用覚帳
天保15年(1844)
八木家文書



■御拝地御用諸事留扣帳
天明5年(1785)
竹内家文書

■浦触写(煎海鼠干地に付) 宝暦14年(1764) 菅家文書

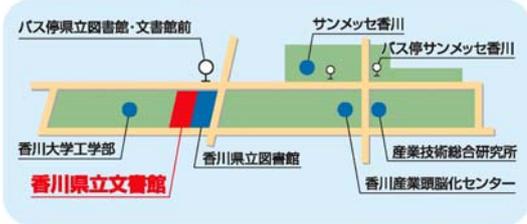


■御頼申任状之事(圓瀬塩浜築造に付金主の依頼) 嘉永2年(1849) 岡家文書



香川県立文書館 Kagawa prefectural archives

〒761-0301 高松市林町 2217 番地 19
Tel:087-868-7171
HP : <http://www.pref.kagawa.lg.jp/bunshokan/>
E-mail:bunshokan@pref.kagawa.lg.jp



- バス JR高松駅・ことでん瓦町駅からことでんバス(65)川島・フジグラン十川行き(レインボー・サンメッセ経由)→「県立図書館・文書館前」下車→徒歩2分
- (61)川島・フジグラン十川行き(サンメッセ経由)または(63)西植田行き(サンメッセ経由)→「サンメッセ香川」下車→西へ徒歩約10分
- 電車 ことでん太田駅下車、東へ約2.7km、徒歩約30分

企画展示

「近世讃岐の島と浦

～古文書で読み解く海辺の暮らし～

1. 開催期間 7月26日(火)～10月2日(日)
休館日:毎週月曜日、祝日、9月20日(火)
2. 開館時間 9:00～17:00
3. 場所 香川県立文書館1階展示室(高松市林町2217番地19)
※県立図書館と同じ建物です。
4. 観覧料 無料
5. 主催 香川県立文書館

6. 趣旨・内容

香川県立文書館では、開館以来県内各地に伝わる古文書を収集・整理するとともに、その調査研究を行ってきました。今回の企画展示では、文書館が収集した古文書の中から、近世讃岐の海辺の暮らしを伝える史料を展示いたします。

7. 主な展示資料(約20点)

*菅家文書

小豆島の東部に位置する草加部村(現小豆島町草壁本町)は、廻船業の繁栄した近世前期には島内最多の廻船を有していました。また小豆島の特産品である塩(島塩)や煎海鼠についても島内有数の生産高を誇った地域です。島ならではの産業や特産品について、草加部村の庄屋をつとめた菅家の古文書を通じてご紹介します。

*竹内家文書

志度湾の東から鴨庄湾の南に位置する鴨部下庄村(現さぬき市鴨庄)の浦奉行をつとめた竹内家の文書から、漁場にまつわる争論や、網株(漁業権)に関する史料などをご紹介します。

*塩田家文書

荘内半島の西側の付け根に位置する仁尾浦(現三豊市仁尾町)は、近世には仁尾村特産の醸造物(酒・酢・醤油など)や、西讃特産の綿の積出港として賑わいました。仁尾浦の前には近世後期から近代にかけて大規模な塩浜が築造されました。仁尾村の庄屋をつとめ、塩浜の開発にも携わった塩田家の文書から、塩浜に関する史料をご紹介します。

*岸本家文書(高松藩領内絵図)、亀水町共有文書(亀水浦)、岡家文書(塩飽本島福田浦)、八木家文書(馬宿浦)